

平成24年度
燕市教育行政評価結果報告書



燕市教育委員会

目 次

I. はじめに

1. 点検・評価の目的	2
2. 教育行政評価委員	2
3. 点検・評価の結果実施状況	3

II. 教育委員の事業一覧

1. 平成25年度の教育委員会事業一覧	3
---------------------	---

III 点検・評価の結果（平成24年度評価対象事業）

1. 「子ども夢づくり事業」	9
2. 「新潟大学教育学部とのパートナーシップ事業」	12
3. 「夢先生事業」	12(未確定)
4. 「【Jack&Betty プロジェクト】（指導強化事業）」	13
5. 「教育指導充実事業」	14
6. 「西部学校給食センター改築事業」	14
7. 「学校教育管理費（学校図書館管理）」	15
8. 「ICT活用実践事業【教育立市】」	16
9. 「ICT地域人材育成・活用事業【教育立市】」	16
10. 「入学前プログラムによる笑顔で入学支援プログラム」	17
11. 「病児・病後児保育事業」	17
12. 「（仮称）吉田南地区統合保育園整備事業補助金」	18
13. 「（仮称）燕南地区幼保一体化施設改修事業」	19
14. 「（仮称）吉田統合保育園建設事業」	19
15. 「子育てつばめメール配信事業」	19
16. 「児童クラブ運営費補助金」	20
17. 「文化財管理のあり方」	21
18. 「分水良寛史料館活性化事業」	21
19. 「長善館史料館活性化事業」	21
20. 「子どもの体力向上プログラム事業（小）」	22

I はじめに

1. 点検・評価の目的

燕市教育委員会では、本市が取り組んでいる教育行政について、市民に分かりやすい評価を行い、公表するとともに、評価の結果を踏まえた新たな課題を教育行政進展に反映させるため、教育行政評価を実施しています。今年度は、燕市総合計画に掲載されている教育委員会関係の5つの施策のうちから、それぞれの施策の具体化を図る20の事業について、点検及び評価を実施しました。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員に委任された事務を含む。）の管理及び執行について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

【5つの施策】

- ① 燕らしい特色のある教育の推進
- ② 教育環境の向上
- ③ 子育て支援の充実
- ④ 生涯学習・文化活動の充実
- ⑤ スポーツを通じた健康づくり活動の推進

2. 教育行政評価委員

(敬称略)

氏名	住所	職業	備考
委員長 赤坂宗道	燕市新堀 2137	僧侶	元県立高校校長
副委員長 藤沢達博	燕市小池 5460	会社役員	燕市国際交流ボランティア登録者
委員 齋藤ミチ子	燕市吉田上町 1-6	主婦	燕市文化協会芸能部吉田支部登録者

3 点検・評価の実施状況へ

点検・評価の実施にあたっては、教育委員会所管の主な施策・事業の取り組みの状況を明らかにし、課題等の分析を行いました。

また、今年度については、5つの施策の主な事業について、平成25年度に向けての取り組み状況を示し、その中から20事業を評価委員より選定いただき、評価を行っていただきました。

開催日	出席者	視察及び会議内容
平成24年 11月26日(月)	委員3名、教育次長2名 教育委員会各課長及び事務局職員6名	・主要事業及び評価説明、委員からの点検評価事業の選定作業
平成24年 12月7日(金)	委員2名、教育委員会各課長及び事務局職員3名	・吉田日之出保育園視察・吉田小学校改築現場、(仮称)吉田統合保育園建設予定地視察・きららおひさま保育園建設現場視察・吉田南小学校ICT活用事業視察
平成24年 12月19日(水)	委員3名、教育次長2名 教育委員会各課長及び事務局職員6名	・事業評価作業
平成25年 1月10日(木)	委員3名、教育次長2名 教育委員会各課長及び事務局職員6名	・事業評価作業
平成25年 2月13日(水)	委員3名、教育次長2名 教育委員会各課長及び事務局職員6名	・評価内容の確認及び報告書の点検

II. 教育委員会事業一覧表

1. 平成25年度の教育委員会の事業一覧

	No.	事業名	事業概要
教育総務課	1	吉田小学校改築事業	吉田中央保育園・吉田学校給食センター解体設計業務委託及び仮説校舎跡地のグラウンド整備工事を行います。
	2	小中川小学校校舎大規模改造事業	校舎大規模改造(Ⅱ期)工事を実施します。(繰越事業)
	3	吉田中学校大規模改造事業	屋内運動場大規模改造工事を実施します。(繰越事業)
	4	西部学校給食センター改築事業	改築(Ⅰ期)工事を実施します。(繰越事業)
	5	東部学校給食センター改築事業	平成26・27年度に建設を予定している東部学校給食センターの敷地購入、造成開発整備工事及び設計業務委託等を行います。
	6	小池小学校煙突ストーブ改修事業	普通教室等煙突ストーブ改修工事を実施します。
	7	小学校普通教室扇風機配置事業	各普通教室に一般家庭用扇風機3台配置(516台)し、学習環境の改善を図ります。
	8	分水教職員住宅解体事業	分水教職員住宅解体工事を実施します。
	9	子ども夢づくり事業	子ども夢基金を活用して、小・中学生全国スポーツ大会出場選手遠征費補助事業及び子ども夢づくり支援事業を行います。
学校教育課	10	指導強化事業	【Jack&Bettyプロジェクト】指導主事・JTE(日本人英語指導助手)を増員し、小・中学校の英語教育の充実を図るとともに、国際理解教育の推進を図ります。中学生海外派遣事業を実施します。

学 校 教 育 課	11	教育センター費	センター専任所員人件費 (燕弥彦科学教育センター専任所員の人件費の県費負担廃止による)
	12	学校教育管理費	市教委連携事業 (市内小中学校に委託していた事業を教育委員会主催にするなど事業を見直す)
	13	学校教育管理費	各小中学校の図書を整備を行います。
	14	学校支援事業【教育立市】	学校支援地域本部事業助成金を見直します。(学校の児童生徒数など規模に応じて助成していたものを事業内容により助成する)
	15	ICT活用実践事業【教育立市】	ICT機器を吉田小学校・吉田中学校に整備します。(H25で市内全小中学校に整備される)
	16	教職員研修事業	「言葉の力」育成研修会、県外先進地視察研修(ときめきスクール推進事業、高校視察、教育アドバイザー派遣など教職員研修を充実します。
	17	ICT地域人材育成・活用事業【教育立市】	ICT支援員を配置します。(H22国補助「地域雇用創造ICT絆プロジェクト事業」で吉田南小学校にICT機器(タブレットPC、電子黒板)ソフトウェアを整備しその活用を図る)
	18	燕ジュニア検定事業【燕はひとつプロジェクト事業】	「燕ジュニア検定問題集」を印刷します
	19	新潟大学教育学部とのパートナーシップ事業	国語科、英語科、外国語活動のパイロット校を拡充します。(児童生徒の「言葉の力」を育成するため、最新の専門的理論を研究している指導者を新大教育学部から派遣してもらい年間を通じて、校内研究の計画的・継続的に指導助言を受ける。また、教員を目指す学生の現場実習の場として、学校で受け入れをする)
	20	海外派遣事業	姉妹都市交流事業(中学生派遣)
	21	長善館学習塾事業	年間を通じたリーダー育成研修事業を実施します。 (様々な研修、体験などにより資質を養い、未来の燕市を担う子どもたちを育成する)
	22	「入学前プログラム」による笑顔で入学支援プロジェクト	就学時健診時等で児童や保護者の入学に対する不安を解消し、小学校入学を円滑にするために、子ども同士の交流会や保護者を対象に講演会を実施する。また、燕市の教育内容等の説明も実施します。
	23	夢先生事業⇒予算未確定	キャリア教育の一環として、子どもたちが将来に向けて自分自身の生き方や目標を持たせるなどを目的に、各分野の専門家などの講演会を実施する。
	24	教育指導費	児童生徒の基礎学力の定着度を把握し、指導方法の改善を図るため、学力検査の項目を拡充します。(いままでのNRTに加えCRT(標準学力検査)、QU(楽しい学校生活のためのアンケート)を追加)
25	教育指導充実事業	小中学校に学習指導補助員を配置し、学習指導、特別活動及び生徒指導等を行うことにより、児童生徒の健全育成を推進します。	

学 校 教 育 課	26	別室登校児童生徒学習支援員配置事業	不登校の理由により、学校には登校できるが教室に入ることができない児童生徒及び適応指導教室に通級している児童生徒に対して、学校と連携しながら個に応じた学習支援を行います。
	27	子どもを育て推進事業	子どもたちの健やかな心の育ちを培う活動を推進するため、各中学校区で実施している子どもフォーラム「深めよう絆スクール集会」への支援、「心の燕市8つのチャレンジ」の定着等を図ります。（マイクロバス運転業務委託など子どもフォーラム経費について助成金から直接費に見直し）
	28	学校管理費（小学校）	学校配当額（消耗品費等）増
	29	教育振興扶助費（小学校）	経済的な理由により就学困難な家庭に対し、小学校でかかる経費の一部を助成する。H24年度から「PTA会費」、「児童会会費」の支給項目を追加し保護者の経済的負担を軽減します。
	30	校外学習推進事業（小学校）	社会、生活、総合学習の校外学習の実施にあたり、児童の移動手段及び安全確保のためマイクロバスの送迎を行います。
	31	理科教育等設備整備事業（小）	児童生徒の科学的な知識や機能を習得させるとともに、工夫創造の能力を養うため、理科・算数教材を整備します。
	32	学校管理費（中学校）	学校配当額（消耗品費等）増
	33	学校管理費（中学校）	授業必修化に伴う柔道用畳購入費（燕中学校・小池中学校・燕北中学校）
	34	教育振興扶助費（中学校）	経済的な理由により就学困難な家庭に対し、中学校でかかる経費の一部を助成する。H24年度から「PTA会費」、「児童会会費」の支給項目を追加し保護者の経済的負担を軽減します。
	35	校外学習推進事業（中学校）	職場体験等の校外学習の実施にあたり、生徒の移動手段及び安全確保のためマイクロバスの送迎を行います。
	36	スポーツエキスパート活用事業	運動部活動に熱心に取組、競技力の向上を目指している中学生に優秀な外部指導者を派遣し、運動部活動の活性化と体力の向上を図ると共に、地域社会との連携を促進します。
	37	理科教育等設備整備事業（中）	児童生徒の科学的な知識や機能を習得させるとともに、工夫創造の機能を養うため、理科・算数教材を整備します。
	38	運動部活動地域再構築事業	生徒が多様なスポーツに親しみ、体力の向上を図るとともに教員の負担を減らし、多くの生徒と向き合う時間を確保するため、地域スポーツ指導者（外部指導者）の活用を行います。
	39	学校給食用食器更新事業	経年劣化し学校給食用食器等を新規購入することにより衛生的で快適な教育環境を整えます。（スプーン・仕切り皿・かご）
	40	給食センター管理運営費	H26 西部学校給食センター稼働に向け学校給食管理システムを導入します。（献立・調理・発注・栄養管理業務・アレルギー食対応）
	41	燕市西部学校給食センター移転改築事業	西部学校給食センター学校給食委託業者選定委員会を設置し、委託業者を選定します。
	42	燕市東部学校給食センター建設事	用地取得費（教育総務課予算）

学 校 教 育 課	43	『燕長善タイム』実施事業	教育課程（時間割）に「燕長善タイム」を位置づけ、5～10分間、テンポとりズムを重視した集中力や学習の向上をめざしたモジュール学習を実施します。
	44	『笑顔を忘れないで』普及事業	燕市出身で17歳で他界した少女が、難病と闘いながらも入院生活や周囲への感動の気持ちを詩に書き残した「笑顔を忘れないで」を歌い継ぐことを通して、歌に込められた思いにふれ、子どもたちの豊かな心を育てます。
子 育 て 支 援 課	45	「つばめおはようタイム」	朝10分程度、手遊びやフラッシュカードなどで遊びながら、子どもたちの生活リズムを整え、集中力を育成し、小1プロブレムの解消を図ります。
	46	私立保育園障がい児保育事業補助金	私立保育園における障がい児保育を推進するため、特別児童扶養手当受給児童に対する保育士を加配する保育園に対して補助金を交付します。
	47	（仮称）吉田南地区統合保育園事業補助金	吉田南保育園と吉田八千代保育園を統合し、吉田南地区に新たに認可保育所を建設するにあたり、民設民営による事業運営を行うための保育園整備事業補助金を交付します。（平成24年度終了）
	48	私立保育園整備事業	有利な財源である安心こども基金補助金を活用して、ぎんなん保育園改築事業に補助金を交付します。（仮設園舎を建て、現在の園舎を取り壊して新築する。）
	49	認可保育所フリー保育士配置事業	フリー保育士が配置されない認可保育園に保育士を配置し、職員の研修機会の確保、気になる子など園全体の保育の見守りを行います。
	50	（仮称）燕南地区幼保一体化施設改修事業	南保育園と燕南幼稚園を統合し、現在の南保育園を増改築し、平成25年4月「燕南こども園」として開園します。（平成24年度終了）
	51	（仮称）吉田統合保育園建設事業	吉田中央保育園と吉田神田保育園を統合し、吉田小学校前に新たに認可保育所を建設し、平成26年4月開園を目指します。
	52	（仮称）分水小学校児童クラブ建設事業	分水小学校区の児童を対象とする児童クラブを新設するため、分水小学校敷地内に児童クラブ棟を建設します。
	53	子育てつばめメール配信事業	登録会員に育児等に必要な情報をメール配信するなど、携帯電話やスマートフォン等を利用し、安心して子育てができるよう支援します。
	54	病後児保育事業	ファミリー・サポート・センターを活用した病後児保育の開始に向け、講習会を開催し、提供会員の養成を図り、病後児保育の受入れ体制をつくります。
	55	病児・病後児保育事業	市内の小児科医院が医院併設の病児・病後児保育施設を整備する費用の一部を助成します。平成26年度からのサービス開始を目指します。
	56	地域子育て支援講座事業	子どもの年齢が異なる母親向けに、NPプログラムの手法により子育て支援講座を行います。
	57	吉田西太田保育園増改築事業	吉田南小学校区の園児の受け入れに対応するため、吉田西太田保育園を増築・改修し、平成27年4月開園を目指します。
	58	児童クラブ運営費補助金	県の放課後児童健全育成事業費交付要綱で規定する補助基準額の同額と減免した額を補助金として支給し、実施団体の児童クラブ運営を円滑にすすめ、児童の健全育成を図ります。

子育て支援課	59	子ども・子育て支援事業計画策定ニーズ調査	子ども・子育て支援事業計画の策定に向け、子育てニーズを把握し事業計画に反映させるため、ニーズ調査を行います。
	60	児童研修館改修事業	建築後 14 年が経過し、空調設備等の老朽化が進み、利用者に十分な環境が提供できないため、空調改修工事を行います。
	61	子育て支援金支給事業	第 3 子以降の赤ちゃん誕生に関する事業で、小学校入学対象者に子育て支援金を支給します。
生涯学習課	62	家庭教育推進事業	子どもたちの豊かな心を育てる活動を、地域・家庭に定着させるため、PTA 等が開催する家庭教育講座等に係る講師謝金の一部（上限 7,000 円）を助成します。
	63	市民教養講座事業	市民の自己学習・相互学習を啓発し、生涯学習の基礎づくりを推進するため、市主催の 13 の市民教養講座に係る講師謝金の一部を助成します。
	64	つばめブックシェアリング事業	モデル地区である燕西地区まちづくり協議会内の読書活動を推進するため、家庭等で不要となった本を寄贈してもらい住民等に無償提供を行います。
	65	つばめBOOKサポーター育成事業	市内の読書活動を推進するため、読書・絵本フォーラム等の開催を通じ、市内の読み聞かせ団体の情報交換・知識集約のプラットフォームを創設し、読み聞かせ団体の新規設立・拡充を図ります。
	66	吉田公民館耐震改修事業	市民の安全・安心な文化活動の拠点として、また、災害時の避難施設として活用するため、実施設計業務委託（H25 年度）及び耐震改修・大規模改修工事（H26 年度予定）を行います。
	67	指定管理者による図書館運営事業	民間事業者等が有するノウハウや斬新なアイデアの活用により、市民への図書館サービスの質的向上と経費の縮減を図ることを目的に、指定管理者による図書館運営を実施します。
	68	文化会館自主事業	市民ニーズに対応し市民に優れたアーティストによる舞台芸術作品の提供や市民芸術・文化活動の場を提供し、芸術文化の向上と福祉の増進を図ります。
	69	恋ツバメ普及事業	時報オルゴールのメロディーとして、市民から親しんでいただいている、恋ツバメの合唱用楽譜・音源を学校や合唱団体に頒布し、より一層の普及を図る。
	70	文化活動支援事業	市民の文化の関心を高め自主的な文化活動の活発な展開と個性豊かな市民文化の振興に資するため、市民の文化活動に助成金を交付します。
	71	つばめっ子かるた普及推進事業	ふるさとへの誇りと愛着を育むための郷土学習及び子どもたちの健全育成の一環として大会開催なども視野に入れた「つばめっ子かるた」の普及を図ります。
	72	文化財保管のあり方	整理が不十分な歴史資料について台帳等を整備し、適切に保管できるようにする。それにより、市民の閲覧等自主的な利用や展示公開などの活用に対応しやすいようにします。
73	長善館史料館活性化事業	慢性的な入館者数の伸び悩みは、館の認知度や活用度の低迷を示している。そのため本来の使命を再確認するとともに設置目的の達成に向けた対応、展示方法の改善、サービス向上を図ります。	

生涯学習課	74	文化会館改修工事	築 30 年が過ぎ、照明・音響・舞台設備が老朽化し、ワイヤー、滑車の破損による落下やケーブルの漏電や火災などが懸念されるため、実施設計業務委託（H25 年度）及び改修工事（H26 年度予定）を行います。
	75	ESCO事業	平成 24 年度に当該事業により、空調施設を改修した中央公民館及び文化会館について、省エネに係る初期投資の抑制、エネルギーコストの低減及び環境保全を推進します。
スポーツ推進課	76	総合型地域スポーツクラブ整備統合推進事業	総合型地域スポーツクラブを 3 地区に整備するとともに組織を統合し「新しい公共」の形を目指します。
	77	健康づくり 100 日運動	1 日 30 分以上の運動を 1 年間に 100 日実施していただくことで、スポーツの習慣化を図ります。
	78	ヤクルトスワローズ野球教室開催事業	ヤクルトスワローズ OB による少年野球を対象とした野球教室の開催します
	79	スポーツ教室開催事業	3 地区の地域の特色を生かしながら、地域ニーズに合った教室を開催します。
	80	スポーツ大会開催事業	気軽に取り組めるニュースポーツ大会や競技スポーツ大会など多彩なスポーツ大会を開催します。
	81	燕市民体育館耐震等改修事業	耐震診断に基づき耐震補強工事を行います。
	82	ビジョンよしだ整備等改修事業	築後 18 年を経過している施設であるため、年次的な改修や整備を行います。
	83	子どもの体力向上サポート事業	子どもの体力向上を目的とした、小学校へ体育授業サポーター派遣事業実施します。

Ⅲ 点検・評価の結果

「燕らしい特色ある教育の推進」

1. 「子ども夢づくり事業」

■ 事業の概要 ■（平成 24 年度当初予算 5,250 千円）

燕らしい特色のある教育を推進するため、燕市の未来を担う子どもたちを育成することを目的に、子ども夢基金を活用し、子どもたちの夢にかかわる事業等の実施を支援する。

■ 主な取組状況 ■

① 小・中学生全国スポーツ大会出場選手遠征費補助金

小学生及び中学生の競技力向上並びに遠征費の負担軽減を図ることを目的として、スポーツの全国大会に出場する小・中学生の遠征に要する経費について、補助金を交付する。

H24 年度 燕市小・中学生全国スポーツ出場選手遠征費補助金 交付実績

H25. 3. 1 現在

	小学生		中学生		合 計	
	人数	金額	人数	金額	人数	金額
空手道	17	302,098	16	736,790	33	1,038,888
剣道	10	175,365	11	298,328	21	473,693
柔道	1	18,000			1	18,000
少林寺拳法			1	26,933	1	26,933
バレーボール	1	25,900			1	25,900
野球			8	291,344	8	291,344
卓球	5	111,567	1	20,030	6	131,597
ソフトテニス	2	100,000			2	100,000
水泳			1	22,230	1	22,230
陸上			2	67,200	2	67,200
バトミントン			2	42,360	2	42,360
合計	36		42		78	2,238,145

② 子ども夢づくり支援事業補助金

児童会・生徒会・クラスなどにおいて、子どもたちの夢に関わる事業を実施する場合、その事業に要する経費を補助する。

子ども夢づくり支援事業

No.	事業名	学校名	事業内容
1	ホテル復活プロジェクト	粟生津小学校	昨年度の4年生が総合学習で取り組んだ活動を継続・発展させ、子どもたちが学校・家庭・地域に働きかけて、粟生津小や長善館の池にホテルを復活させる。
2	創立140周年記念・吉小ドリームランド	吉田小学校	保護者をはじめ、地域の保育園児や吉田特別支援学校の児童を招いて毎年実施している「吉小ドリームランド」を創立140周年記念に絡めて、子どもたちが知恵を出し合い、バージョンアップして盛大

3	あいさついっぱい、やさしさいっぱい 松長小	松長小学校	<p>に行う。</p> <p>あいさつ運動の推進やいじめ根絶を図るため、全校児童が誓いの言葉を書き込んだ垂れ幕を作成し、松長小学校のシンボルとするとともに、地域に活動を広める。</p>
4	夢はでっかく かがやく 小池っ子	小池小学校	<p>新潟大学教育学部保健体育専修の学生のリズム体操を鑑賞するとともに、簡単なリズム体操を教えてもらい、縦割り班ごとに発表を行う。</p> <p>月1回のなかよしタイム（縦割り班活動）でリズム体操を取り入れる。</p>
5	届けよう！10年後の未来へ！！	燕東小学校	<p>創立140周年を記念し、あすなる児童会の事業として、児童一人一人が未来の自分に思いをはせ、夢や希望を綴ったメッセージを作成し、（財）丸岡町文化振興事業団「おもひでカプセル便」を利用して、10年後の自分に送る。</p>
6	くす玉を作って気持ちを伝えよう！	大関小学校	<p>児童会の集会活動や6年生を送る会、1年生を迎える会で、くす玉割りに使うくす玉を作成する。くす玉の中には、飾りや言葉を書いた垂れ幕のほか、手作りのメッセージカードを入れ、歓迎や感謝の気持ちを伝える。</p>
7	ひまわり戦隊西小レンジャー	燕西小学校	<p>燕西小学校ひまわり児童会のマスコットキャラクター「ひまわり戦隊西小レンジャー」を作り、児童会活動を盛り上げる。</p>
8	創立50周年記念夢づくり講演会	吉田南小学校	<p>創立50周年記念式典にあわせて児童会主催の「夢づくり講演会」を開催する。講師には植松電機専務取締役の植松努さんを招き、「夢に向かって～思うは招く～」を演題に講演いただく。講演後、グラウンドで1m級のロケット発射実験を行う。</p>
9	青空フェスティバル	燕南小学校	<p>児童会活動の一環として、2年生以上の学級が出店を出して、縁日を行い、幼稚園・保育園児や地域の方から楽しんでもらっている。児童の投票により、表彰を行っているが、トロフィーを作ることににより、意欲を高め、青空フェスティバルを活性化する。</p>
10	立ち上がれ！ロボコン燕北中	燕北中学校	<p>ロボコンチームを結成し、毎年開催されている「創造アイデアロボットコンテスト」に出場する。今年度中に基本ロボットの製作を進め、来年度大会出場に向けて準備を進める。</p>
11	子どもが作る「弁当の日」企画その1 不思議！食卓の科学？化学？ (児童会主催講演会)	分水小学校	<p>小学校5年生から料理実習が始まり、農業、畜産業、漁業などの産業や食品について学習することになる。</p> <p>分水小学校では、来年度「子どもが作る『弁当の日』」の取り組みを計画するにあたり、食品の安全性について知りたいという児童の声が高まった。</p> <p>分水北小学校、島上小学校にも声をかけたところ、それぞれの学校でも食品の安全性を知りたいとの声が上がった。</p> <p>そこで、講師に「食品添加物の神様」と呼ばれている安部司さんを招き、3校の児童会共催による食品の安全に関する講演会を開催する。</p>
12	～私たちの口に入る身近な食品は安全なの？～	分水北小学校	
13	「食品の安全について知ろう」 (児童会主催講演会)	島上小学校	

14	自分たちの学校に自信と誇りをもってもらおう「のぼり」を	小池中学校	「絆運動」「いじめ0運動」「あいさつ運動」「募金活動」と生徒会が中心となって多くの活動を行っているが、その活動に色彩と華を添えるため、生徒自らがデザインした「のぼり旗」を作成し、学校のシンボルとする。
15	今、世界の子どもたちは。そして、私たちのできること	燕北小学校	卒業・進級を控えたこの時期、世界の子どもたちの実際の姿を知り、今私たちの出来ること、今私たちの知りべきこと、学ぶべきこととして、長岡市国際交流センター長の講演会を実施する。
16	届けよう！モザンビークに笑顔を豊かな心を	分水中学校	使っていない文房具を生徒会で集め、モザンビークの子どもたちに全校生徒一人一人のメッセージを付けて贈呈する。
17	輝け！5年生、チーム吉北！ 仮装大賞支援プロジェクト	吉田北小学校	欽ちゃんの仮装大賞新潟県予選会に参加し、全国大会を目指す。
18	盛り上げよう私たちの生徒会！ 育てよう自治意識！	燕中学校	あいさつ運動、交通安全運動、思いやり強調月間など各運動等の実施に呼び掛けだけでなく、のぼり効果による視覚的にも訴え、関心をもってもらうため、のぼりを生徒会本部や運動の中心主体となる専門委で燕中オリジナルののぼりを作成する。

■教育委員会の自己評価等■

遠征費補助金については、ニュースポーツの普及により、補助対象となる競技スポーツの種目の根拠を明確にする必要があると思われる。

子ども夢づくり支援事業補助金については、各学校での活用が定着し、事業の内容がより充実するようにPRに努めたい。

子ども夢基金の財源となる寄付金の額が伸びないため、子ども夢基金についての周知を図る必要がある。

■評価委員の意見■

- ありがたい事業であり、継続を希望する。
- 事業に対する財源が必要である。今後の見通し、寄付への呼びかけをお願いしたい。
- 財源についてのアイデアを出していただきたい。
- 財源が無ければ継続できないので、財源は懸案である。

2. 「新潟大学教育学部とのパートナーシップ事業」

■ 事業の概要 ■（平成 24 年度当初予算 400 千円）

新潟大学教育学部の教授（准教授）による最新の学術理論に基づいた、授業実践を市内の小中学校で展開する。

■主な取組状況■

- ① 児童生徒の「言葉の力」を育成するため、最新の専門的理論を研究している指導者を新大教育学部から派遣
- ② 年間を通じて、校内研究の計画的・継続的に指導助言を受ける
- ③ 教員を目指す学生の現場実習の場として、学校で受け入れを強化

■教育委員会の自己評価等■

大学と学校の校内研究の取組が一体となり、継続的に指導助言を受け、課題解決にあたり、パイロット校での継続実施及び実施校を拡充し、パイロット校における成果を市内全小中学校での共有化を図り実践化していきたい。

■評価委員の意見■

- ・学校現場に良い刺激となっていていいと思われる。
- ・パイロット校だけでなく、すべての学校で実施してほしい。
- ・費用がかからないのであれば、新潟大学だけでなく、他の大学とも検討していただきたい。
- ・教科指導等については各大学いろいろ特色があるので、一つの大学だけでなく検討いただきたい。
- ・学校現場の先生方の負担にならないように、相互作用により、いいものにしていただきたい。
- ・学生を受け入れる場合、学校現場にとっても、学生にとっても有意義なものとなるように配慮をお願いしたい。

3. 「夢先生事業」・（25 年度検討事業）⇒予算未確定

■ 事業の概要 ■

夢を持つこと、その夢に向かって努力することの大切さ、仲間と協力することの大切さを夢先生の授業を通じて、子どもたちに伝えることにより、夢を持ち、それに向かって努力する子どもたちの育成を目的としている。

キャリア教育の一環として、子どもたちが将来に向けて自分自身の生き方を考え、目標を持つきっかけとなるように、各分野の専門家などの講演会を実施する。

■主な取組状況■

- ① 派遣希望のある学校へ夢先生を派遣
- ② 地域の人材や外部の人材等を活用した講師の派遣

■教育委員会の自己評価等■

全国学力・学習状況調査の結果の中で夢を持つ子どもの割合をみると、全国平均や新潟県内の平均に比べ、燕市内の小学生の割合は低い。しかし「物事を最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」との問いについては、全国平均や新潟県平均と比べると高い。

そのため子どもたちに将来の目標や夢を持つ機会を与えることが重要であると考えられる。

夢先生からの授業を受けて、夢を持つことや、夢に向かって取り組むことの大切さを子どもたちに実感させたい。

■評価委員の意見■

- ・キャリア教育のプログラムを作成し、モチベーションを高めてほしい。
- ・事業の目標・タイミングを大事に実施してほしい。
- ・身近な人たちからの話、先輩がやっている会社訪問は具体的な内容が理解できる。
- ・目標が見つかるような、個性を伸ばす方向へ進めてほしい。
- ・子どもたちに目を向け、学級経営に活かしてほしい。
- ・夢を持つこと、目標がはっきりすれば、必要なもの、やらなくてはいけないことが分かることで学力向上につながると思われる。

「教育環境の向上」

4. 「【Jack&Betty プロジェクト】（指導強化事業）」

■ 事業の概要 ■（平成 24 年度当初予算 14,765 千円）

指導主事・JTE（日本人英語指導助手）を増員し、小・中学校の英語教育の充実を図るとともに、国際理解教育の推進を推進する。

■主な取組状況■

- ① 外国人 ALT は主として中学校に配置し、クラスで英語教師とのチームティーチング
- ② 日本人外国語指導助手を小学校に配置し、毎週担任とチームティーチングができるようにし、英語活動の指導助手と担任の指導力向上を図る
- ③ 希望者を募っての英語クラブを開催し、ALT・英語指導助手・その他を講師にして、希望する児童生徒の英語指導をする。
- ④ 将来を担う中学生を対象に海外派遣事業を実施する。

■教育委員会の自己評価等■

小学校に英語活動が本格実施されてから 2 年が経過する。児童が楽しく英語活動に取り組み、英語嫌いにならずに中学校へ進学できるよう、英語指導助手を二人雇用し、全小学校において隔週で担任とチームティーチングができるよう配置してきたが、十分であるとはいえない。

中学校での NRT 検査の結果が改善してこないため、小・中学校に教育における英語の重要性が増している。計画的に小学校英語指導助手・外国語指導助手の増員を図りたい。幼稚園・保育園からの訪問希望も多くなってきている。

■評価委員の意見■

- ・家庭をどうやって巻き込むかが重要。
- ・是非、充実させてやっていただきたい事業である。
- ・外国人の指導は、子どもたちのモチベーションが上がり、先生方も刺激になる。
- ・小さなときから、英語を身近なものとして取り入れた教育はいいことである。
- ・高校の英語の先生方との交流も出来るといいと思われる。

5.「教育指導充実事業」

■ 事業の概要 ■（平成 24 年度当初予算 47,315 千円）

小中学校に学習指導補助員を配置し、学習指導、特別活動及び生活指導等を行うことにより、児童生徒の健全育成を推進する。

■主な取組状況■

- ① 各小・中学校の通常学級在籍の児童生徒に学習指導等の支援を必要とする児童生徒の状況及び人数に応じて 1 名から 2 名配置
- ② 年 3 回学習指導補助員を対象に研修会を実施し、学習指導補助員の役割や児童生徒との関わり方、指導法などを研修し、日々の児童生徒の学校生活を支援

■教育委員会の自己評価等■

個別に学習指導・生活指導等を必要とする児童生徒数により、学習指導補助員を配置し、個に応じた指導の充実を図っていく必要がある。

■評価委員の意見■

- ・大変いい事業である。是非継続してほしい。
- ・授業内容につまずき、授業についていけなくなる子どもたちをなくしてほしい。
- ・小人数で丁寧な指導が、子どもたちに目が届き、学力向上につながると思う。
- ・小中学校は難しいと思われるが習熟度での授業も検討が必要と思われる。

6.「西部学校給食センター改築事業」

■ 事業の概要 ■（平成 24 年度当初予算 51,837 千円）

吉田学校給食センターと分水学校給食センターを統合し、最新の衛生管理基準をクリアし、アレルギー食にも対応した、安全安心な学校給食を提供できる給食施設の建設を行う。

■主な取組状況■

- ① 平成 24 年度は基本設計・実施設計を行う。
- ② 平成 25 年度・26 年度で移転改築を行い、平成 26 年 9 月から供用開始予定

■教育委員会の自己評価等■

- ①建設した施設には、市職員の配置を行い、献立作成、食材の購入、調理関係の指示、給食

の検査、給食指導等は直接市で行う

②民間委託の部分は、調理作業、洗浄消毒、給食の配送

■評価委員の意見■

- ・100%民間委託でないので、安心した。
- ・食の安全、食育については、教育委員会の指導のもとで行ってほしい。

7.「学校教育管理費(学校図書館管理)」

■ 事業の概要 ■ (平成 24 年度当初予算 2,000 千円)

読書の機会を積極的に設け、児童生徒の心を耕す豊かな読書生活を実現するため、学校図書館の図書充実を図る。

■主な取組状況■

- ① 内容の古い本、学習の現状にそぐわない本の廃棄
- ② 朝読書など学校内の読書活動の推進
- ③ 言葉の力の育成

■教育委員会の自己評価等■

学習指導要領においては、総則にて「学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」と記載があり、また、小学校の国語や社会、特別活動等でも読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うことが必要である。

なお、児童の読む図書については、「人間形成のため幅広く、偏りがないように配慮して選定すること」と記載があり、教育において、学校図書館の意義について記載されている。

しかし、現状の学校図書館においては、14校に司書教諭の配置はあるが、司書業務のための授業や事務作業の負担軽減はされていない。さらに燕地区は図書館管理ソフトを導入しているが、13年前のPCを利用しているため、不調をきたし、使用不可能PCが出てきている。吉田・分水地区については、手書きのカードを利用しているため、生徒別の集計や新刊登録すべて手書きで記入しているため蔵書管理にも支障をきたしている。

子どもたちの読書傾向や蔵書の内容をしっかりと把握し、必要な図書や、足りない図書の把握し、計画的に子どもたちにとって有効な図書の購入が必要である。

■評価委員の意見■

- ・図書館の利用状況が減ってきているのは気がかりである。
- ・学校図書の管理システム等を早く取り入れて、使用しやすいような環境にしていきたい。
- ・利用しやすい図書館は、活用方法も変化してくると思われる。
- ・図書館に子どもたちの足が向くような工夫、取り組みが必要である。
- ・図書館の環境整備について、近い将来に向け電子化の検討が必要であり、興味、関心も

てる資料センターとしてほしい。

8. 「ICT活用実践事業【教育立市】」

■ 事業の概要 ■（平成 24 年度当初予算 9,300 千円）

子どもたちの学習意欲を引き出すとともに、基礎学力の定着を目指し、わかりやすい授業を展開するため、デジタルテレビ（モニターとして）、書画カメラ、パソコンを整備する。

■主な取組状況■

- ①導入機器の授業での活用事例の共有化
- ②平成 25 年度に吉田小学校と吉田中学校に ICT 機器を整備予定

■教育委員会の自己評価等■

ICT 支援員や先生方が作成した教材について、それぞれ作成にあたった学校では利用されているが、学校間での共有はできていない。

そのため、今後の事業の実施にあたっては、教職員用の PC サーバを活用して先生方作成したフラッシュカード等の教材について、共有化を図り、各学校で ICT 機器の活用を積極的に進める必要がある。

■評価委員の意見■

- ・学力を定着させるための使い方を研究してほしい。

9. 「ICT地域人材育成・活用事業【教育立市】」

■ 事業の概要 ■（平成 24 年度当初予算 2,704 千円）

H22 国補助「地域雇用創造 ICT 絆づくり外事業」により吉田南小学校に整備した ICT 機器（タブレット PC、電子黒板）を積極的に活用し、児童の学力向上を図る。

■主な事業の取組状況■

- ① ICT 支援員を配置し、教材の作成や教材の共有化にあたり、教員の負担軽減を図るとともに、よりわかりやすい授業を行う。

■教育委員会の自己評価等■

社会の情報化が急速に進展し、今後の更なる情報コミュニケーション技術（ICT）の発展が予想される。学校においても、コンピューターやインターネット、デジタルカメラなどの ICT が多様な学習のための重要な手段として活用されてきている。

このような状況の下で、児童生徒が、情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身に付けることの重要性はますます高まっている。

また、「わかる授業」を実現し、「確かな学力」の育成に資するため、教員が ICT を効果的に活用した授業を展開することが重要となっている。

子どもたちの学習意欲を引き出すとともに、基礎学力の定着を目指し、わかりやすい授業を展開するため、ICT 機器を活用するとともに、ソフトウェア及び教材を共有化し、積極的

に活用することで、児童の学力向上を図る。

■評価委員の意見■

- ・単元によって、教材の選択が必要
- ・先生方の技術力、使い方指導をお願いしたい。
- ・本質的な原理原則を大切にして、進めていっていただきたい。
- ・時代はデジタル化していく、将来的なことも踏まえて予算を検討してほしい。
- ・県外先進校との交流もやってもらいたい。
- ・学校に1教室は、大型の電子黒板を配置し、子どもたちが席を移動することなく授業に集中できるよう、機器のグレードアップの検討も必要と思われる。

10. 「入学前プログラム」による笑顔で入学支援プロジェクト」・(新規検討事業)⇒予算未確定

■ 事業の概要 ■

就学時健診時等で児童及び保護者を対象に講演会を実施する。あわせて、燕市の教育内容等の説明も行う。

■主な取組状況■

- ① 「入学前プログラム」を活用し、就学時健康診断時と入学説明会時を捉え支援プロジェクトを展開
- ② 教育委員会の主催により「燕の教育」について保護者に説明する機会と位置付ける。

■教育委員会の自己評価等■

これまでは、小学校入学を円滑にするために保護者に対して、各小学校が独自で入学説明会を開催してきた。教育委員会として講演会や説明会等を開催することで、小学校入学の円滑化を更に進めたい。

子供向けプログラムと保護者向けプログラムにより支援していきたい。

■評価委員の意見■

- ・少子時代において、親の不安もあるので、是非行ってほしい。
- ・基本的な習慣は大事なことである。
- ・早寝、早起き、朝ごはん、生活リズムを大切にしてほしい。
- ・幼保の連携により、ギャップを解消するため、丁寧に繰り返し説明してほしい。

「子育て支援の充実」

11. 「病児・病後児保育事業」・(新規検討事業)

■ 事業の概要 ■

小児科医院に併設した病児・病後児保育施設を整備して、病児・病後児保育を実施し、子育て中の保護者の支援を行う。

■主な取組状況■

- ①小児科医院に併設した病児・病後児保育施設を整備する。
- ②集団保育が困難であり、かつ保護者の就労等の都合により家庭で保育を行うことが困難な生後6ヶ月から小学校3年生までの児童を病児・病後児保育施設で保育する。

■教育委員会の自己評価等■

保護者が就労している場合において、子どもが病気の際に自宅での保育が困難な場合がある。こうした保育需要に対応するため、病児・病後児保育を行ってもらえる医療機関を探し、病児・病後児保育を実施したい。

■評価委員の意見■

- ・小児科のドクターの協力がなければ出来ない事業である。協力医にメリットがあるような方法を検討してほしい。

12. 「(仮称)吉田南地区統合保育園整備事業補助金」

■ 事業の概要 ■ (平成24年度当初予算425,167千円)

吉田南保育園と吉田八千代保育園を統合し、吉田南地区に新たに民設民営の認可保育所(きららおひさま保育園)を建設するにあたり、保育園整備事業補助金を交付する。

■主な取組状況■

- ①きららおひさま保育園を建設する社会福祉法人吉田福祉会に対し、保育園整備事業補助金を交付する。(平成24年度で終了)

■教育委員会の自己評価等■

現在の保育サービスを維持しながら、多様な保育サービスにきめ細かく対応し、さらに保育事業を拡大するにあたり、民間の力を活用する。就学前児童数が増加する地域にあって、保育室の不足や老朽化により保育園の統合・新設が必要となってきた。

■評価委員の意見■

- ・視察時には工事が遅れているようであったが、4月開園準備が進んでいるので安心した。
- ・人件費や人員の募集状況はどのようになっているか心配である。
- ・民間経営となるので、経営状態が悪くなった時に、公設と同じような適切な保育ができるか心配である。
- ・開園当初は市の指導が出来るが、経過するとともに指導が出来なくならないよう、法人に対して法的な指導関与は出来るようにしていただきたい。
- ・経営及び運営についての指導関与について、補助金を交付するための基準も含め検討していただきたい。
- ・独自の経営、地域密着型で子どもを育てていただきたい。
- ・民間委託の不安払拭のため、市民にしっかりした方針の説明が必要である。

13. 「(仮称)燕南地区幼保一体化施設改修事業」

■ 事業の概要 ■ (平成 24 年度当初予算 203,341 千円)

南保育園と燕南幼稚園を統合し、現在の南保育園を増改築し、平成 25 年 4 月「燕南こども園」として開園する。

■主な取組状況■

- ① 現在の南保育園を増改築
- ② 南保育園及び燕南幼稚園を統合し、幼保一体化の「燕南こども園」を開設する

■教育委員会の自己評価等■

燕市立で初の認定こども園の開設に向け、園舎の増改築を行うとともに、幼保一体化検討会を開催し、万全な準備を進めてきた。

■評価委員の意見■

- ・ 幼児教育と保育を一体として捉えた新しい枠組みで、一体的な運用となるので、準備をしっかりしていただきたい。
- ・ 小学校教育へ円滑な接続になるよう配慮してほしい。
- ・ 幼保一体化の内容を市民に明示してほしい。

14. 「(仮称)吉田統合保育園建設事業」

■ 事業の概要 ■ (平成 24 年度当初予算 271,861 千円)

吉田中央保育園と吉田神田保育園を統合し、吉田小学校前に新たに認可保育所（(仮称)吉田統合保育園）を建設し、平成 26 年 4 月開園を目指す。

■主な取組状況■

- ① 保育園建設用地を取得
- ② 基本設計・実施設計の実施
- ③ 平成 25 年度に園舎を建設し、開園を目指す

■教育委員会の自己評価等■

周辺住民の騒音や送迎時の安全性に配慮しながら、保育室等の日当たり等を考慮すると、園庭が周辺住宅側の配置になるが、周辺の住民に説明会を開催し理解を求めていきたい。

現在、乳児保育が実施されていなかったが、0 歳児から 5 歳児までの保育を実施する。

また、子育て支援室を併設し、地域の子育て支援も行う。

■評価委員の意見■

- ・ 子どもたちが主役なので、子どもたちがのびのびと活動できる設計にしてほしい。

15. 「子育てつばめメール配信事業」

■ 事業の概要 ■ (平成 24 年度当初予算 0 円)

登録した会員や育児に関心のある方に育児等に必要な情報をメール配信するなど、携帯電

話やスマートフォン等を利用し、安心して子育てができるよう支援する。

■主な取組状況■

- ① 防災つばめメールのサーバを拡張することにより、子育てつばめメールを構築して配信
- ② メールアドレスを登録した会員に育児に必要な情報をメールで配信
- ③ 子ども手当の受付開始や支給日のお知らせなど、リアルタイムな子育て支援の情報の配信
- ④ 子育てサークルやイベント情報の配信

■教育委員会の自己評価等■

月齢や季節に合わせた離乳食の紹介など、メール配信で好評のメール情報をホームページでも更新し、内容の充実を図る必要がある。

子育てサークルやイベント情報を配信し、参加してもらうことにより、保護者同士の交流の場を提供し、リアルな人的ネットワークをつくり、保護者の育児不安解消につなげていきたい。

今後は、子育てつばめメールのPRを強化し、登録者の拡大を図り、育児に関する情報以外にも学校や保育園行事、図書館の新刊情報など、防災メールと合わせて幅広い年代から利用してもらえる情報を配信できるようにしたい。

■評価委員の意見■

- ・今の時代にあっている事業である。
- ・情報内容を充実してほしい。
- ・一方的な配信だけでなく、双方向性のコミュニケーションについても検討してほしい。
- ・女性だけでなく、男性へのPRも必要と思われる。

16. 「児童クラブ運営費補助金」・(新規事業)

■ 事業の概要 ■

児童クラブの実施団体に対し、県の放課後児童健全育成事業費交付要綱で規定する補助基準額の同額と実施団体が減免した額を補助金として支給し、実施団体の児童クラブ運営を円滑にすすめ、児童の健全育成を図る。

■主な取組状況■

- ①民間の児童クラブに運営費補助金を交付

■教育委員会の自己評価等■

吉田南小学校区の児童クラブメートが定員オーバーな状態である。民間からも児童クラブを運営してもらうことで、潜在的な待機児童を解消し、児童の健全育成に資することができる。

■評価委員の意見■

- ・公的クラブと民間クラブでの、保護者の負担額の違いがないよう検討してほしい。

・時間外、日曜日については、保護者の判断となるが、クラブ運営・経営については、差が出ないように、市の指導関与について検討してほしい。

「生涯学習・文化活動の充実」

17. 「文化財管理のあり方」

■ 事業の概要 ■

整理が不十分な歴史資料について台帳等を整備し、適切に保管できるようにする。それにより、市民の閲覧等自主的な利用や展示公開などの活用に対応しやすいようにする。

■ 主な取組状況 ■

- ① 埋蔵文化財：旧燕工業高校、旧保健センター、吉田旭町倉庫で分散保管
- ② 古文書等文献資料：中央公民館、吉田庁舎前史料室、良寛史料館に分散保管
- ③ 民具資料：産業史料館、粟生津小学校、分水北小学校、旧納谷耳鼻科倉庫に分散保管

■ 教育委員会の自己評価等 ■

再整理作業のためであっても、何度も移動を繰り返すと資料の散逸を招きやすい。そのため、資料の保管場所を確定したうえで、移動計画に基づき資料の再整理を進めるのが望ましいと思われる。

各分野ともかなり専門的な分野になるため、再整理作業は簡単に業務委託できるものでないと思われ、人材、作業場所、物品などについても考慮しなければならない。

保管場所として、古文書等資料は特に湿気と光に注意が必要であり、埋文資料、民具資料についても湿気、急激な温度、湿度の変化は避ける必要がある。継続的な保管場所を確定し、市民や研究者が資料を検索、利用しやすい環境を構築したい。

■ 評価委員の意見 ■

- ・散逸、焼けたりしたら、二度と戻ってこないなので、保管をしっかりとっていただきたい。
- ・分類・整理、公開の方法をシステム化するには、お金が必要であるが、保管を大事にしてください。
- ・大変な作業だと思われるが、燕市だけでなく大切な財産であるので、大事に保管していただきたい。
- ・民間の力を借りて、整理することも検討が必要と思われる。

18. 「分水良寛史料館活性化事業」・19. 「長善館史料館活性化事業」

■ 事業の概要 ■（平成24年度当初予算7,750千円・3,866千円）

入館者の求める現代的な展示館を目指しながら、市域の史料館としてすべての市民から展示テーマを認識いただき、さらにその存在に誇りと愛着をもっていただくことが、従前の課題であることから、その時折の検討と実施した事業経緯を踏まえながら、新たな視点を取り入れた活性化策を検討していく。

■主な取組状況■

- ① 現状の調査・分析
- ② 近隣館との協調体制を構築
- ③ 既存の関係団体、地域の団体等との連携を検討
- ④ 来館者に悦びを与える展示・企画展等の実施とポイントを押さえた誘客活動の実施
- ⑤ 来館者に向けた館内サービスの充実

■教育委員会の自己評価等■

慢性的な入館者数の伸び悩みは、館の認知度や活用度の低迷を示している。そのため同館本来の使命を再確認するとともに設置目的の達成に向けた対応、展示方法の改善、サービス向上などを行う必要がある。

入館者の増加に伴い、地元市民の認知度が向上し、地域の誇りと認識されることにより、市民各人自らが誘客するなどを目指し、地域の館としての活性化目指していきたい。

■評価委員の意見■

- ・難しい問題である。利用者が伸びないならば、オープンする日を限定することも検討する必要があるのではないか。
- ・特効薬はないと思う。立地条件の悪さも影響している。
- ・作品だけでなく、ビデオ作製は理解しやすくなると思われる。
- ・受け伝えていくことは大変なことである。文化財を含めて史料館の大事さについて、考えていかなければならないと思われる。
- ・予算がつきにくい事業であるが、無くすわけにはいかない。1 つでも2 つでも関心をもってもらよう事業を検討していただきたい。

「スポーツを通じた健康づくり活動の推進」

20. 「子どもの体力向上サポート事業」(25年度新規事業)

■事業の概要■

運動好きな子どもたちを育て、体力・運動能力の向上を図るため、小学校に体育授業サポーターを派遣し、体育授業の活性化を図る。

■主な取組状況■

- ① モデル指定校を設け、体育授業サポーターを派遣する。
- ② 新潟大学とのパートナーシップにより、体育授業の検証を行い、授業活性化の協議、研修を行う。
- ③ モデル指定校の実践を基に、市内全小学校への体育授業サポーター派遣を企画する。

■教育委員会の自己評価■

スポーツをする子としない子の二極化現象が起きており、子どもの成長にあった練習や体を動かすことの楽しさを感じさせられる指導者や教員の育成が必要である。

家庭や地域において、子どもの体力低下が及ぼす影響に対する認識が十分でない。家庭や地域の意識を変えていくことが重要となる。

■評価委員の意見■

- 学力・体力とも、子どもたちにとって危機的な状況にあると思われる。
- 日常生活で動かない子どもが多くなってきている。
- 全体の子どもたちの体力を上げるために、データ分析して事業を検討する必要がある。
- 地域、家庭を巻き込んだ事業が必要になる。
- 知力も体力も相互に向上するプログラムの検討をお願いしたい。
- 学校と連携をとりながら、進める必要がある。
- 学校教育課、新大パートナーシップ等連携が必要である。
- お金をかけず、成果を上げる工夫が必要である。
- 運動嫌いな子どもが増えてきている。子どもが少なくなっている中で、好んで体を動かし、小さいときから運動嫌いな子どもをつくらないような環境を、保護者と共に検討する必要がある。
- 外で遊ぶことの楽しさを伝えることができるようなアイデアが必要になってきている。
- 原因について分析し、把握、検討してほしい。
- アイディアの情報収集や他県への研修も必要である。

